

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp

離島振興の歩み

七年目へ突入。

忽那の島々を

ふる里の島に！



松山離島振興協会の会長として3度目の再選を果たした田中会長が就任あいさつに立ち、野志市長の掲げる「愛ランド里島構想」への側面支援を約束。後半は、今後の方向性について、松山市企画政策課のみなさんと意見交換しました。



平成十八年四月十五日の発足から数え、七年目の活動期に入った松山離島振興協会の定期総会が、去る五月十三日に、創設を宣言した中島総合文化センターにて開催されました。

改選期となる奇数回の今回、三役は田中政利会長、山本士人・古野真理子両副会長が再選され、金本房夫・赤崎務両監事も続投となりました。理事は一名の交代があり、新理事に脇坂千恵美さんが就任したほか、執行部の体制は、地域産業部が島原和暁部長、石本憲三副部長、観光振興部は田中治部長、村上良二副部長が、しまづくり部は内藤久司部長、立花啓一副部長がそれぞれ就任し、事務局三役も俊成雅直事務局長以下変更なしとなりました。

松山市では、中村前市長から野志現市長が離島振興の意志を引き継ぎ、その表現に関し、新たな思い入れのこぼれとして「離島」を「里島」と表記するなど、離島振興策にさらなる魂を込めていただいております。忽那諸島にあって、市との協働の体制は、以前にも増して強化されたように思います。また、中村知事が新たに公表された「仮称・大島博覧会」は、野志市長が取り組まれている「瀬戸内・松山構想」とも相まって、瀬戸内海に浮かぶ島々のすばらしい魅力を改めて掘り起こすきっかけになるものと、大いに期待するところです。

私たち松山離島振興協会は、これら行政の動きをじっくりと見極め、そして自分たちには何ができるのかをしっかりと考えながら、この一年を活動していくとともに、さらに先々の環境の変化も常に予測しながら、忽那諸島にとって、もっとも有用な政策が引き続き施されていくよう、行政と島民との橋渡し役として、その役目を十分に果たしていきたいと思っております。島に住む多くのみなさんのご理解を得て、協会活動を盛り立てていただくと願っていますので、みなさんにはぜひとも、新規協会会員となっただきますようお願いいたします。

中世の丸子砦に立つ。

— 忽那ロマン探訪現地踏査 —



90mの丸子鼻頂上へたどり着いたメンバーたち

わが国の歴史上、およそ鎌倉時代から安土・桃山時代までといわれる中世。水軍は海の領主として島々を治め、同時に海の覇者として海上交通の水先案内役を務めてきました。その一つ 忽那水軍は、中島に本拠を置き、各所に砦を設け、往時は西瀬戸一帯を取り仕切ったといわれています。そんな忽那水軍の足跡をたどる『忽那ロマン探訪』の取り組みの中、協会のガイドマニユアル作成部会では、各島に残された水軍の足跡を記録する現地踏査に乗り出しました。

部会メンバーが現地踏査の最初の島に選んだのは、田中会長の住む怒和島。五月の連休のある日、意気揚々と上怒和港に降り立った部会メンバー六人が、まずめざし

たのは上怒和港近くの丸子鼻への登頂。戦後放置されて以来、人の立ち入りを拒み続けた丸子鼻。立ちふさがるブッシュと道なき急斜面に呆然とする一同に、会長の「行くぞ」のひと声。先導役を担う会長は、若い頃身に付けたという「藪漕ぎ」の業で、後進に道を切り拓いていきます。三十分近くの間、格闘の末、どろどろになりながらもやっとの思いで頂上にたどり着き、周囲を眺めましたが、景色は雑木でまったく見えません。腰を下ろし晩柑をほおぼりながら一息し、改めて辺りを見回すと、かろうじて足場は南北に細長い平坦な地形が広がっており、その先は断崖絶壁、真下はクダコ水道となつていいます。丸子の鼻は、島の北東に位置し、松山側であるクダコ水道に突き出た断崖絶壁の独立丘陵。水道の中央に位置する中世クダコ城をはさみ、対岸の中島本島には「大部屋・小部屋」と呼ばれる古い地名も残されています。まさにこの地は、水道を航行する船舶を嚴重に見張る最適の位置、天然の要害を利用した絶好の海の関所で、丸子鼻の斜面には高さ3mを越える石積みや郭を形づくる平坦地、また岸辺の磯には柱穴が穿たれるなど、忽那水軍城の足跡が残されていました。

怒和島は元々一つの集落で形成されていたと語られますが、中世から近世にかけ、丹念な石垣技術で町並みを形作った島東の上怒和地区と、安芸灘に面し、湾を取り囲むように整然と細い路地と町並みが扇状に広がる元怒和地区の二集落があり、現在、半農半漁を糧とする島民すべてを合わせても四百五十人以下、高齢化率五十五%以上という高齢化社会となっております。この島が、いつの頃から「ぬわ」と呼

農道から中世クダコ城のあったクダコ島を間近に望む



ばれるようになったのか、なぜ「怒和」という字があてられたのか。中世クダコ衆や丸子姫などあまたの伝説と謎に満ちた島の物語とが残される怒和島。鎌倉時代の文書や室町時代の足利義満の安芸国厳島神社の参拝記録に、「安芸国蒲刈島に向かう途中『ぬわ』の島々が見える」とあるように、どちらの集落にも多くのつわものたちの墓標である五輪塔が至るところに祀られています。なかでも、元怒和集落を見下ろす俵山のその裾野には、いくつかのまとまりを持った五輪塔群が残されており、私たちが知らない島の歴史がそこに残されているようです。その一つひとつが、島を語る貴重な歴史遺産、今こそ詳細な記録が必要であることを改めて知ったメンバーでありました。

自然や独自の歴史文化に触れ、農漁村で余暇を過ごすグリーンツーリズムが静かなブームとなっている今日、協会では、「島を語るガイド人材の育成」のためのガイドマニユアルづくりに引き続き取り組んでいきます。

お大師参いウォーキング in睦月

毎年、春の恒例行事となつてい
る睦月島のウォークイベントが
今年も四月十五日の日曜日に開
催されました。
今回で六回目の開催となるこ
のイベントは、協会でももつとも
古い取り組みのひとつ。島の理事
である田中治さんの呼び掛けで
島の女性陣のパワーが結集する、
今に続く伝統あるイベントへと
成長、毎回二〇〇人規模の集客を
誇っています。その人気の秘密
は、おみやげ物売り場にありまし
た。お越しのみなさんが迷うほど
の品数は、同時に島のお年寄りが
楽しみにするほどの充実ぶり。



そんな副次効果も生む恒例イ
ベントに、今回は先日開催の『し
まコンアフターイベント』を相乗
り。めでたくカップルとなった
方々を招待する企画を田中理事
にお願ひしていました。当日、
参加できたのは残念ながら一組
だけ。でも、男性陣もよその島へ
はなかなか行ったことがなく、い
い機会と喜んでいただけました。
大勢の市民にまぎれて、島デー
も楽しい二人のもとに、ややお邪
魔な感じも田中会長が合流。当人
なりの思いで二人の前途を祝福
する健気な会長でした。
睦月の新名物となった催しに、
ぜひ一度、お運びください。

忽那諸島の今昔を語る

／松山観光ボランティアガイドの会 総会

去る平成24年5月25日、松山市総合コミュニティセンター会議室で開催された『松山観光ボランティアガイドの会』の総会で、田中会長が「松山離島振興協会の取組みと忽那諸島の紹介」と題した講演を行いました。

平成24年度の定期総会に際し、忽那諸島のことを学びたいと、協会に基調講演を依頼した『松山観光ボランティアガイドの会』は現在、呉市との間で提携を結び、それぞれの行政とボランティアガイド、運輸事業者の計6者がスクラムを組み、両市の観光面での相互乗り入れの取組みを協定し活動中。その活動の一環としてすでに、石崎汽船・瀬戸内海汽船の船上で、それぞれの観光客に対する事前観光案内のサービスを実施しています。広島市・呉市から乗船の来松客に、道後・松山の案内はもとより、道中である忽那諸島界隈の水先案内を行うことで、瀬戸内・松山構想に基づく現代の瀬戸内海の魅力をお伝えするとともに、海上交通華やかかなりし中世の時代の水軍の歴史に思いを馳せていただこうという趣向です。

当日、40分の時間をいただき会長が講演した内容は、協会設立の経緯から始まり、坂の上の雲の支援事業を受けての地域資源調査やクルージングの取組み、夢工房での提言『しまはく』が実現する経過、そして現在の『里島ツーリズム』に至った流れなど協会活動を時系列で解説するとともに、忽那9島が持つ固有の魅力も順に紹介しました。話しの締めくくりには、ボランティアガイドのみなさんへの協力をお願いする一方で、「ぜひ自分の目でその魅力を確かめてほしい」と来島を歓迎する呼びかけも。両者の今後の連携が、新たな島の活性化につながる気がしています。



【地域産業部】

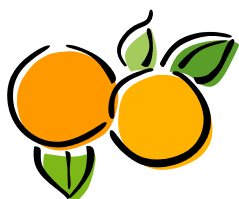
興居島みかんと中島のみかんの風味は違います。それぞれに特長がありますから、お客さんにとっては、それが選ぶ楽しみとなっているようです。釣島出身のぼくが、興居島にもいくらかの農地を持ってみかんづくりに精を出しているわけですが、その手塩にかけた製品をおいしいと言ってもらえたら、それに勝る喜びはなく、がんばった甲斐があります。

これからも多くの方に喜んでみかんをつくり育てていきたいと思っています。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 石本憲三

TEL961-2033



【観光振興部】

中島汽船に務める中島大浦の村上です。今回、観光振興部の副部長を仰せつかりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

私は仕事柄、協会の企画・運営するクルージングの段取り等がメインの役回りになるかと思いますが、参加されるみなさんに喜んでいただけるよう、いいコースを考え、みなさんを安全・快適にお連れできたらと思っています。秋には、新たな提案のクルージングを開催したく思っていますので、みなさんご期待ください。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 村上良二

TEL997-2038



【しまづくり部】

15年間続けた役所勤めを辞め、平成18年4月から故郷の野忽那島に戻り漁師を始めた私ですが、今は家族や仲間たちと共に、島にお金を落とす仕組みを作り上げようと、日々模索の毎日を送っています。島での安定した暮らしを継続させるためには、経済的支えを確固たるものにすることが命題中の命題です。しかもそれを無理なく自然な形で継続させることはまさに至難の業なのですが、松山市の後押しもあり、今少しずつではありますが、何かが見えつつある気がしています。「体験というキーワードの中で、自分たちの島の暮らしが提供できるものは？」そうした視点で、これからもさまざまな挑戦を続けていきたいと思っています。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 立花啓一

TEL998-0021



里島めぐりの最新情報はHPでチェックしてね!

<http://ritoumeguri.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆